

と名づけて賜ひしとぞ、是久松氏の祖のよしいへりと、衣浦千鳥集といふものに書たれど、此郡名は、その比よりはるかむかしより呼びしなり、日本後紀に、延暦廿四年七月丙子、尾張國智多郡地十三町、賜中納言從三位藤原朝臣内麻呂とも見えたり、その里老の傳への附會なること知るべし、されども菅公の御子の當郡に住給ひ、其裔孫地士となり、久松氏と稱せしことは實事にて、久松の家譜等にも然いへり、慶長六年、性高院君當國拜領あらせられし時は、この智多郡は除きて七郡なりしが、同十一年、智多郡を御加増あらせられて、繼て源敬公拜領し給へり、

〔張州府志^{二十七}〕疆域 凡智多郡、當州南而遠出海中、南北率可十三里、東西或一里、或二里餘、雖接界於愛智郡、然實似孤絕之一島、西南三方隔海、與伊勢志摩及三州地相對、郡中南北連山、其山谷之間有民居者、俗謂之中通、其沿海之邑、謂之東浦西浦、與勢州海路七八里、或十里許、東浦與三州相去甚近、三里或一里、阿野竟以一川爲界、郡中凡一百四十餘村、

〔日本後紀^{十三}〕延暦廿四年七月丙子、尾張國智多郡地十三町、賜中納言從三位藤原朝臣内麻呂、〔倭名類聚抄^六〕尾張國 中島郡 美和 神戸 拜師 小塞^{乎世} 三宅 茜部^{阿加} 石作^{以之豆}

日野 川崎

海部郡 新屋 中島 津積 志摩 伊福 島田 海部 日置 三刀 物忌 三宅 八田

葉栗郡 葉栗 河沼 大毛 村國 若栗

丹羽郡 五^{〇五} 吾^誤 鬘 稻木^{以奈} 上春 丹羽 穗積 大桑 下沼 上沼 前刀 小弓 小野

小日

春部郡 池田 柏井 安食 山村 高苑 餘戶

山田郡 船木 主惠 石作 志誤 山口 加世 兩村^{布多} 餘戶 驛家 神戸

愛智郡 中村 千電 日部 大毛 物部 厚田 作良 成海^{奈留} 驛家 神戸